

伝えたい ふるさと東5

草木八景(1)

藤井 実さん(東町花輪)

昭和五十一年に草木大橋が完成する以前には、その橋下に吊り橋

「草木橋」があつた。

※吊り橋の草木橋は、昭和十一年九月に完成。

この吊り橋下流の河床には、昭和初期までであろうか、「草木八景」と呼ばれた奇石巨岩が点在していた。

※大正十四年迄、この巨岩があつたことが、岩澤正作氏の『渡良瀬峡内澤入塔見聞記』からわかる。

伝え聞くには、この岩頭に登り、正午時に天を望むと日中でも星を見られるといい、「星岩」と呼んだという。

二、弘法の割岩

下草木の河原にある高さ約五呎、幅六呎の一大花崗岩塊。その割れ目に沿って裂け開いた一片は前に倒れている。

その割れ裂けた面は平坦で、人爲とはおもえないところから、弘法の割岩と称したらしい。

一、星岩

二、弘法の割岩(石)

三、釜戸岩

四、雄釜・雌釜

五、四十八窪石(護摩壇石)

六、龍燈(燈籠)岩

七、龍の口岩

八、龍岩

の岩々である。

この岩々の名は、平安時代の大同年間(八〇六、八一〇)、弘法大師が全国を巡錫(行脚)の道すがらに撰ばれ付けられたと伝えられていた。

※大同年間には、荻原善雄寺、花輪祥禪寺が開かれた。

いずれも、花崗岩の立派な巨石の岩々であつた。

江戸時代の中頃の天明二年(一七八二)、高山彦九郎著の『沢入道能記』には、

大草木の内に、釜石とて大成石に水を湛うあり。

又、四十八海とて四十八穴の岩有る。又、われ石とて二ツに割れたる如きの大岩あり、此三石此

その内部は一見カマド形の穴をしており、砂に埋まり、その深さはわからないといわれる。

カマド甌穴の後壁の高さは一呎ほど。その中部は凹んでおり、背後にある甌穴の排水道となつて

いる。時には甌穴から滝のように水が流れ落ちるのだらう。

南辺近くには又一の溝道ある。

両溝道の間は隆起しており、その背後は長さ六呎余。大小

辺りに名高しとあり、江戸時代の頃から知られていた岩々であつた。

昭和八年(一九三三)の岩澤正作氏著「黒川峡と澤入塔」に、岩々のあつた場所とその形状が詳細に記されている。

一、星岩

字宮澤と下草木との中間、渡良瀬川右岸の崖から少し離れた所にある。

高さ八、九呎、長さ・幅ほぼ十呎ほど、石のてつぺん(岩頭)には一つの円形のへこみ(穴)がある。

の溝穴複数ある。

カマド甌穴の北は北に向かつて高く南に低く、東北部は岩角の下部は窟状をしている。

そこは、数多の小甌穴と、水に浸食された凹凸があつて奇形をなしている。

この光景は、峡中においても際だつており、日本でも珍しいものである。このさまは天然記念物ものである。

※甌穴(おうけつ)とは、河底や河岸の石面上にできた円形の穴。何万年もの月日を経て出来た奇岩。

※草木八景の名石は次回も続きます。